

協会けんぽ山口支部における職域肝炎ウイルス検査促進の取り組みと
受診確認および受診勧奨の取り組み

研究分担者：日高 勲 済生会山口総合病院 消化器内科
研究協力者：新里 英輝、加藤 泰大 全国健康保険協会山口支部

研究要旨：国を挙げての肝炎検査受検啓発の取り組みにより、健康増進事業や特定感染症事業による肝炎ウイルス検査の受検者数は増加した。一方で、職域における肝炎ウイルス検査が進んでいない現状がある。協会けんぽでは、624円の自己負担額で受診可能な肝炎ウイルス検査オプションを有するも、その受検率は年1%前後であった。研究班の先行研究同様、協会けんぽ山口支部でも2018年度より簡易リーフレットを導入したところ、受検者数は増加した。また陽性者の受診状況を調査した結果、70%以上の陽性者が検査後比較的早期に医療機関を受診していることが確認された。さらに2021年より独自に作成した陽性通知書送付による保健指導員からの受診勧奨を開始した結果、未受診者の新たな受診者へつながり、検査陽性者の約80%の受診が確認された。

A. 研究目的

わが国には約350万人の肝炎ウイルスキャリアがいると推定され、ウイルス肝炎は国民病であると記述されている（肝炎対策基本法前文）。ウイルス性肝炎に対する治療は飛躍的に進歩しており、ほとんどの患者で病態制御が可能で、専門医による適正な診断・治療が望まれている。

検査未受検の陽性者に対する対策として2002年度から老人保健法（現在健康増進法）で主に国民保険加入者を対象者として市町村主体の肝炎ウイルス検査が行われ、現在も健康増進事業による肝炎検査が継続されている。また、特定感染症事業として県や保健所実施の肝炎ウイルス無料検査が実施されている。近年、自治体における肝炎ウイルス検査受検啓発が盛んに行われており、山口県においても、県と肝疾患診療連携拠点病院が中心となり、特定感染症事業による肝炎ウイルス無料検査の受検啓発を実施し、肝炎ウイルス検査の受検者数は増加した。

一方で、全国健康保険協会（協会けんぽ）

や健保組合等の職域における肝炎ウイルス検査が進んでいない現状があった。約3000万人が加入する我が国最大の保険者である協会けんぽでは、624円の自己負担（協会けんぽが1455円を負担）で肝炎ウイルス検査を受診可能なオプションを有するも、その受検率は年1%程度であった。先行研究（協会けんぽ福岡支部）では、受検申込書の文字数が多い事に着目し、簡易リーフレットを作成したところ、受検率は約10倍に増加を認め、簡易リーフレットを用いた個別勧奨の効果を確認されている。

山口県においても先行研究「職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究」において、協会けんぽ山口支部で同様の簡易リーフレットによる受検勧奨による効果検証を開始しており、本研究でも研究を継続し、その効果検証を行う。さらに、陽性者のその後の受診状況についても実態把握を行い、未受診者への対策を考案し、受診率向上につなげることを目的とする。

B. 研究方法

2018年度より協会けんぽ山口支部内全健診実施医療機関から、個人に郵送する健診案内に研究班作成の簡易リーフレット兼受検申込書を、2021年からは協会けんぽで改定された全国版簡易リーフレットを同封し（図1）、受検数（率）、検査陽性者数の増加の有無を検証した。

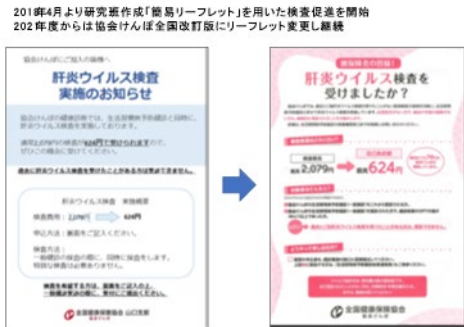


図1 協会けんぽ肝炎検査簡易リーフレット兼受検申込書

その後の実地調査で健診施設でのリーフレット案内が不十分である可能性が判明したため、単施設でのリーフレットの効果検証を2020年9月より済生会山口総合病院健診部でリーフレット配布を徹底し、追加検証した。

また、協会けんぽ支部の事業担当者がレセプト情報を確認し、陽性者の医療機関の受診状況について実態調査を行った。

さらに2021年1月からは、協会けんぽ山口支部で作成した図2のような陽性通知書（受診勧奨文書）を未受診と考えられる陽性者に協会けんぽ保健指導員より送付し、受診につながるか効果検証を行った。



図2 陽性通知書（受診勧奨文書）
初回精密検査費用助成案内リーフレット

C. 研究結果

受検数、受検率の推移と陽性者数

協会けんぽ山口支部における簡易リーフレット同封前の2017年度の肝炎ウイルス検査受検数は1087件（健診受検者の1.1%）であった。簡易リーフレット送付後の受検数（受検率）は、2018年度3419件（3.4%）、2019年度2496件（2.4%）、2020年度2165件（2.0%）、2021年度1525件（1.4%）、2022年4-9月565件（1.0%）であり、簡易リーフレットに変更後受検者数は一時2-3倍に増加したが、近年減少傾向である（図3）。

尚、検査における陽性者は2018年度28名（HBV12名、HCV16名）、2019年度15名（HBV8名、HCV7名）、2020年度17名（HBV8名、HCV9名）、2021年度16名（HBV9名、HCV7名）であった。

協会けんぽ山口支部より、健診実施医療機関にリーフレットの個別配布依頼を行っていたが、分担研究と研究協力者が健診機関を訪問し、実地調査を行った結果、複数の施設で配布が十分に行われていないことが判明した。

2020年9月に済生会山口総合病院健診部を訪問し、リーフレットの同封徹底を依頼したところ、同封前の2019年度検査数（受検率）は6件（0.4%）、2020年4-8月は0件（0%）で、同封後の2020年9-2021年3月は60件（6.0%）、2021年度は215件（13.7%）と検査数は増加した。

協会けんぽ山口支部における肝炎検査数と検査率

	健診数	肝炎検査数	受検率
2017年	95767	1087	1.1%
2018年	99607	3419	3.4%
2019年	104358	2496	2.4%
2020年	105921	2165	2.0%
2021年	111851	1525	1.4%
2022年4-9	57524	565	1.0%

済生会山口総合病院健診部における肝炎検査数と検査率

	健診数	肝炎検査数	受検率
2017年度	1556	6	0.4%
2020年4-8	302	0	0%
2020年9-	1005	60	6.0%
2021年度	1569	215	13.7%

図3 肝炎検査の検査実施数の推移

受診勧奨後未受診者の新規受診を確認

2022年11月時点

受検期間	受診勧奨文書送付日	送付件数(未受診者)	新規受診数		
2018年4月～ 2020年3月	2021年1月21日	11件	HBV	8	3
			HCV	3	0
2020年4月～ 2022年3月	2022年9月13日	7件	HBV	4	1
			HCV	3	1
2022年4月～ 2022年3月	2022年6月27日	4件	HBV	3	1
			HCV	1	0

図4 肝炎検査陽性者の精密検査受診状況と受診勧奨後の現状

受診状況と受診勧奨の効果

2020年にレセプトデータにより受診状況を確認したところ、2018年度陽性者28名中21名(75%)、2019年度陽性者15名中11名(73.3%)、2020年度陽性者17名中11名(64.7%)の受診が確認できた。さらに受診者の受診時期についても確認したところ、75%以上が3か月以内に、90%以上が6か月以内と陽性判明後比較的早期に受診していた。

2020年度に分担研究者と研究協力者新里、協会けんぽ山口支部の保健指導員(山口県肝疾患コーディネーター認定)で、生活習慣病の指導で実施している文書を参考に、新たに作成した陽性通知書(受診勧奨文書)を作成(図2)、陽性通知書と山口県で作成した職域検査における初回精密検査費用助成案内リーフレット、肝疾患専門医療機関一覧表を協会けんぽ山口支部より未受診者に送付する受診勧奨を2021年1月より開始した。

2018年度・2019年度の未受診者11名に2021年1月に受診勧奨を行い、その後3名(HBV3名)の新規受診が、2020年度の未受診者7名に2021年9月に受診勧奨を行い、その後2名(HBV1名、HCV1名)の新規受診が、2021年度の未受診者4名に2022年6月に受診勧奨を行い、その後1名(HBV1名)の新規受診が2022年11月時点で確認にされた(図4)。

D. 考察

従来の検査申込書では、協会けんぽ山口支部における肝炎ウイルス検査の受検数は年間約1000件(受検率約1%程度)であったが、簡易リーフレット配布に変更後、受検数は2-3倍に増加し、リーフレットの有効性が確認された。しかし、研究班の他支部での同様の検証と比較して増加率は低く、検査数も経年的に減少傾向である。

その要因として、山口県では以前より特定感染症事業における肝炎ウイルス無料検査の受検啓発を医療機関の健診部でも積極的に実施してきたことが背景にあるためと推測したが、研究分担者および研究協力者が実地調査を行ったところ、簡易リーフレットが個別の健診案内に封入されていない健診機関が複数あることが判明した。封入が徹底できていなかった医療機関の一つである済生会山口総合病院健診部で、案内の徹底を依頼し、検証した結果、受検率は0.03%から10.7%となり、33倍以上に著増した。多施設でのリーフレット配布等の効果検証においては、個別の対象機関での取り組みの正確性の有無が大きく結果に作用するため、検証開始時の説明の重要性を改めて認識した。

協会けんぽは保険者であり、医療機関受診者のレセプトが確認できるため、レセプトデータより受診状況の推測が可能である。研究協力者によるレセプトデータによる調査の結果、検査陽性者70%以上が、検査後

比較的早期に、医療機関を受診していることが判明した。受診率が高い要因については個別に申し込みを行って実施する能動的検査であることが大きな要因と推測するが、今後さらなる検討を行い、政策提言につなげたい。

協会けんぽ山口支部では本政策研究での協議を契機に、支部所属の健康指導員全員が山口県肝疾患コーディネーター（肝炎医療コーディネーター）の認定を取得した。その結果、肝炎検査や陽性者への受診勧奨の必要性の理解が深まり、2021年より保健指導員から未受診者への書面での受診勧奨が開始できた。その結果、これまでに6名の未受診者が新規受診し、陽性者の受診確率は約80%となり、職域検診における個別受診勧奨の有効性が示された。今後も未受診者への受診勧奨は継続していく。

E. 結論

簡易リーフレットによる適切は受検啓発により、肝炎検査受検数の増加を認め、職域における肝炎検査促進に簡便かつ有用な取り組みである。

レセプト調査による受診調査の結果、検査陽性者の多くが、その後医療機関を受診しており、職域においては肝炎検査の受検啓発が新規患者の掘り起こしにつながった。

職域においても、医療機関未受診者への受診勧奨は新たな新規受診につながる有効な手法である。

F. 政策提言および実務活動

<研究活動に関連した実務活動>

研究班の活動を契機に、協会けんぽ山口支部の保健指導員が肝炎医療コーディネーターを取得している。定期的な協議を実施することにより保健指導員による未受診者への受診勧奨が開始できた。さらに県の肝炎医療コーディネーター研修会で、協会けんぽの保健師にパネリストとして活動を報告していただき、相互理解に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

○日高 勲、花田 浩 市中病院における健診部での肝炎検査受検啓発と院内受診勧奨の取り組み 肝臓 63 Suppl(1) A359, 2022

3. その他

啓発資材

簡易リーフレット兼受検申込書（山口支部版）

啓発活動

日高 勲：講演「肝炎撲滅を目指した受検・受診・受療の取り組み～山口県肝疾患コーディネーターとともに～」

山口県肝炎医療コーディネーター研修会 2020年10月 Web配信 主催：日本肝臓学会、山口大学医学部附属病院肝疾患センター

日高 勲：講演「肝炎医療コーディネーターの役割」

令和2年度山口県肝疾患コーディネーター養成講習会 2020年11月15日 主催：山口県、山口大学医学部附属病院

日高 勲：講演「多職種で取り組む肝炎医療コーディネーター活動」

令和3年度第1回香川県肝炎医療コーディネーター養成研修会

2021年10月16日 主催：香川県

日高 勲：講演「ウイルス性肝炎に関する患者・家族指導に必要な知識を学ぼう」

令和3年度 山口県看護協会一般教育研修 2021年11月27日 主催：山口県看護協会

日高 勲：講演「多職種協働で取り組む受検・受診・受療～山口県における肝炎対策11年の歩み～」

令和3年度肝疾患研修会 2021年11月30日 主催：山口大学医学部附属病院

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし